

第7回堺市中学校給食検討懇話会 議事要旨

| | |
|--|--|
| 日 時 | 令和2年11月19日(木)午後3時00分～午後4時30分 |
| 場 所 | 堺市役所本館3階第2会議室 |
| 出 席 者 | 委員：勢戸委員、植木委員、吉原委員、仲野委員、石山委員、中村委員、池田委員、苅野委員、八竹委員、富永委員 事務局：教育委員会事務局職員 傍聴者：1名 |
| 案 件 等 | 1. 開会 2. 協議事項 ① 小中一貫した食育の推進について 3. 事務連絡 4. 閉会 |
| 資 料 | (1) 次第 (2) 資料1：小中一貫した食育の推進について |
| 会 議 内 容 | |
| <p>1. 開会</p> <p>【鎌田委員、田中委員が欠席】</p> <p>鎌田座長の指名を受けて勢戸委員が座長を代行。</p> <p>(勢戸座長) 協議に入る前に、前回、吉原委員のほうから事務局に対して、「他市において、給食時間に部活動の昼練をしているか」のご質問があったかと思えます。その回答はどうでしたでしょうか？</p> <p>(事務局) 吉原委員から、給食時間に部活動の練習をしているかどうかというご質問があり、近隣で和泉市と岸和田市の教育委員会に確認をしました。両市とも、給食の時間に部活動の昼練をすることは認めていないということでした。給食時間は、準備をして、給食を食べて、後片づけをするまでの時間を30分から40分程度確保しており、給食時間の間は教室の中で過ごすとなっているので、部活動の昼練をすることはないということでご回答をいただいております。以上です。</p> <p>(勢戸座長) 吉原委員、それでよろしいですか。</p> <p>(吉原委員) それは和泉市と岸和田市の学校長の裁量で教室にいなさいと言っているわけではなくて、教育委員会の指針としてですか。</p> <p>(事務局) 教育委員会としては認めていないということです。</p> | |

(吉原委員) わかりました。ありがとうございました。

2. 協議事項

① 小中一貫した食育の推進について

【資料1を基に事務局が説明】

(事務局) 今日は田中委員がお休みということで、事前にいただいたご意見を報告させていただきます。小学校給食を経験した栄養教諭を中心にした指導体制を構築しないと小中一貫した食育ができないと考えています。小学校での食育を理解した栄養教諭が中学校に食育としてつなげていくことが必要ではないかというご意見を今回いただいております。以上です。

(勢戸座長) では、実際にご意見をいただきたいのですが、堺市中学校給食改革実施方針に基づいて食育を推進していくということになっておりますが、例えば保護者の方から、学校とか教育委員会に期待するものとか、ぜひこうやってほしいとかいうご意見はございませんでしょうか。

(植木委員) 実際、今、学校で行っている食育の指導がどういうものかというのを子どもは十分に把握できていないところがありますので、保護者を対象にした勉強会みたいなものを開いていただけると、保護者もそこで勉強ができるし、子どもたちがどういうふうな指導を受けているかというのにも目に見えて分かっていいのかなと思います。小学校と中学校では、特に栄養教諭の方の動き方、働き方というか指導方法も違うと思いますので、今までどういうふうに実施していたか、今後どうしていくかというのを保護者対象に勉強会などをしていただけると、保護者としては安心感が出るのかなと思います。

(吉原委員) 私も小学生の父でもあるので、栄養教諭からプリントが配られたり、給食を毎日食べたりはしているのですが、失礼な話で申しわけないのですが、白いプリントでメニューだけが載っていたりとか、あまり親の目に留まらないような形になっていると思います。中学生になってくると、部活動とか、体格も成長期に入るし、各家庭の考え方とかもあるので、プリント配布でも講演会でもいいのですが、何かしら親に対しての理解とアプローチを求めるようなことをしていただきたいなというのが希望です。

それと、実際に食中毒の問題や、アレルギーのいろんな事故が起きているので、これは市教委に申し上げたいところではあるのですが、そういうところは隠さず、ある程度、情報開示できるところは見える化をしていた

だきたいです。先日、私自身副会長をさせていただいている大阪府PTA協議会で、コロナで学校園の名前を公表する政令市ということで堺市が挙げられていました。私は、こういう見える化はとて素晴らしいと思いました。地域住民にどこの中学校でクラスターが発生した、どこの小学校でクラスターが発生したというのを堺市は公表する立場だということで、大阪府の会議でお聞きしました。給食についても、アレルギー問題や、諸問題については隠さずに公表してほしいというのが希望です。

(勢戸座長) 今は、食育については、学校単位で実施しているが、その内容が保護者には余り伝わっていないということですね。

(植木委員) どんな指導をされているのか全く知らないです。授業参観で命の授業とかは参加したことがあるのですが、栄養指導には立ち会うこともないので、今後はそういうのもあってもいいのかなと思います。

(勢戸座長) 他にないですか。学校長の委員の皆様のご意見はいかがでしょう。

(仲野委員) 小中一貫した食育の推進というのは、子どもたちが生きていくなかで大事なことだなというのは感じるところです。小学校のなかでも、食育全体計画は校長がきちんと計画を立てないといけないというご指導を以前いただきました。小中一貫した食育を無理なく現場の中で推進していくにはまず、自分の学校が作っている食育の全体計画をきちっと学校の中で共有しないとけないと思っています。

具体的に言いますと、本校で言えば、指導部の組織、保健体育委員会という場で、栄養教諭に、「食育について情報提供しながらやってね」というような話もしています。小学校が自分の学校の食育全体計画をしっかり作り、中学校の食育全体計画とすり合わせるためには、栄養教諭同士の情報交換が必要だろうと思います。

あとは、夏期の小中合同研修で、学校の学びのスタンダードを小学校と中学校で共有したり、生徒指導上の問題を共有したり、道徳科をどのように進めるかというのを話し合ったりしていますが、その場を活用することもできると思います。ですから、何年かに1回、食をテーマに小学校の実態と中学校の実態を情報交換していくと、それぞれの食育全体計画がすり合わされたものになっていくのかなと考えるところです。

(勢戸座長) 学校単位では、食育を実施しているということですね。

(仲野委員) 学校の中での共有もまだまだ課題があって、そこも大事だなとは思って

います。

(勢戸座長) 中村委員、お願いします。

(中村委員) 先ほど事務局からの報告があった田中委員の意見に同感です。小学校給食を理解した栄養教諭が中学校にも校区で配置されるのが理想かなとは思っています。本校は栄養教諭の配置はないので、本校の食育は学年任せになっているというのが現状です。委員会から送られてくる食通信を学年に配付して、家庭科の先生や教科で関係のある先生が、それを基に授業をやるというようなところで、どこまで系統立てて学年の段階に応じてできているかという、申し訳ないことに自信はないです。せっかく中学校給食が始まるということであれば、小中で一貫した食育が大きなポイントになるうかと思えます。

ただ、我々、教科の専門はあるのですが、食育の専門というのは全くありませんので、それを指導しなければいけないというところには非常に不安があります。ですから、何回もこの会議で言わせていただいていますように、栄養教諭の存在というのが非常に大きいというのは思っています。

(勢戸座長) 石山委員、小中一貫の食育の推進ということで、学校側のご意見は何かございますか。

(石山委員) 浜寺中学校ですが、9年間を見越した「小中一貫教育グランドデザイン」というのを、先ほどもありましたように夏期研修のときに時間をとりまして去年、形として初めて作ったものが今お手元にお配りしたものです。それまでも小学校の先生とお話ししながら、浜寺中学校は栄養教諭が配置されていますので、栄養教諭が中心になって、小学校1年生から中3までの、どういうことが必要なかという子どもの姿、どんなふう育てていったらいいのかということで、一昨年前からこういう話は始めておりました。

こういうものがあると、全校挙げてというか、校区全体でこういう方向で食育を進めていくことができます。先生の入替わりはこの学校でもあるのですが、浜寺中学校は、中学校の2、3年では、「なりたい自分の実現に向かってこういうことを考えていこう」ということを中心にカリキュラムを組んでいきます。今、道徳の授業でも、栄養教諭と担任が中心になって、家庭科の教員ももちろんですが、食に関する事、先日はお米に関する事で授業をしたのです。こういう形で進めていければ、小学校でお米に関する事はもちろん学習されているだろうし、どんどんつなげていけるのかなと思っています。例えば自分の学校の課題はまた違うから、こ

んなふうにしていこうとかいうのを作っていければ、校区のものができて
いって、小中一貫の食育の推進というのが進めていけると思っています。
一応参考までに本日、本校のグランドデザインを資料として用意させてい
ただきました。

(勢戸座長) 今これで動いているわけですね。その中でも、何か問題が出てきてい
るとか、課題があるとかいうのはどうでしょうか。

(石山委員) まだ始まったばかりで、具体的にどういうところに課題があるかとい
うのは見えてきていないです。コロナ禍の関係で小学校との会議は今できて
いない状態で、小中一貫の推進のリーダーだけが定期的に小学校と中学校
を行き来して、学校の状況を把握するところまでです。生徒指導上のこと
で言うと、スマホに関してのSNSのトラブルが小学校でも中学校でもあ
って、どんなふうにしていったらいいかということが課題です。

(勢戸座長) 今後続けてやっていかれると思うのですが、これは石山委員のところの
校区で独自の取組をされているわけですね。だから、その成果がどうだ
ったという検証は、言葉は悪いですが、誰もしないということになります。

(石山委員) そういうことになりますね。食育に関するアンケートは定期的にとって
いるので、校内では睡眠時間であるとか、朝何時に起きたとか、排便がど
うだったかとかいうのは校区内で実施しています。

(仲野委員) 学校力向上プランにグランドデザインをリンクさせておられないです
か。各学校が学校力向上プランというのを作っていて、ホームページ上で
公開することになっていますので、このままの検証にはならないかもしれ
ませんが、力を入れておられるところについて部分的には評価があります
よね。

(勢戸座長) 中学校給食改革実施方針のところには、全市で一貫した食育となってい
ると思います。だから、その成果は全市で共有して、今後どうするかとい
うシステムも必要かと思うのですが、これからということですね。

(仲野委員) グランドデザインは各学校であるのですが、それぞれの学校のテーマで
作成するので、本校では「確かな学び」のところで作っています。

(中村委員) 2枚目に浜寺中学校のワークシートの結果が載っているのですが、課題
のところ、朝の排便が少ないというのは、朝トイレに行っていない子が

多いということですか。

(石山委員) 他校と比較したことはないのですが、気になる子が比較的多いのかなと思います。

(中村委員) 要するに、朝排便しない子がいるということですね。
浜中ファームの取り組みというのはどんな取組ですか。

(石山委員) 結構な広さの畑があるのですが、各クラスで、風紀委員や代議員とかとは別で、浜中ファームのサポーターを各クラスで2人以上募って、定期的にジャガイモや大根を植え、お昼休みに交代で水やりをするとか、収穫したものを各学年調理実習で使っていくことで食育とつなげていくということですね。

(中村委員) 技術の生物育成とは関係なくやっているということですね。

(石山委員) 技術は技術で、教科としてその場所で枝豆を栽培するというのを別でやっています。

(勢戸座長) 保護者の方と校長先生から小中一貫の食育推進についていろいろお聞きしたのですが、栄養教諭の先生方もどうやっていきたいとかいうのがあるだろうし、いい機会なのでお願いします。

(八竹委員) 私も資料を持ってきました。前回お話の中で、食育の評価はどうしているのだろうというご意見があったので、これを見ていただいたら、こういうふうになっているということが言えるかなと思って持ってきました。

1枚目が食育全体計画といって、先ほどからお話が出ていたものです。これは小学校も中学校も全校作って教育委員会に提出するように言われていますので、堺市の小中学校は100%作っていると言われています。ここに情報がぎっしり詰まっております、生徒の実態で、朝食の摂取率何%とか、いろいろ調査をして、自分のところの学校の実態はどうかということを出してから、どういう計画にするか考えます。それと、学校教育目標と食育というのをリンクするように言われていますので、それを基にこういう全体計画が作られています。学校、地域によって実態が違いますし、学校によって課題が違ってきますので、食育全体計画の目標とするところも違ってきます。

用紙の一番下のところに食育推進の評価というのがありますが、ここでどういうふうの評価するのかというのを書いています。本校の例で言いま

すと、私、昨年度中学校に赴任してきたばかりで、実態といっても食育のアンケートから見るといったことしかできないので、本当の実態を知りたいと思って、家庭科の教諭に頼んで、家庭科の食領域の授業に全部入らせてもらうことにしました。メインは家庭科の教諭なので、T.T です。ここは強調したいというところを私がお話しするみたいな形で入らせてもらいました。評価は活動指標と成果指標といって、どれぐらい活動をやったのかということと、どういう成果が出たのかということで評価するようになっていきます。私の場合は家庭科が主体だったので、家庭科での食育がどれぐらいできたのかということ自分で評価するのと、成果指標のところ、「家庭科の食領域のテストで何点以上というのを目標にしてもいいよ」ということを大阪府教育庁の指導主事にご相談して教えていただきましたので、こんなかたちで評価をしています。

実際、昨年度も同じ目標設定をして、目標をクリアしたのですが、今年度も継続してやっていこうと思います。

今年度は、先ほど石山委員がおっしゃったように、堺市の中学校栄養教諭4人全員で取組んで、道徳で『日本のお米』という題材について、堺市全体の中学校で使ってもらえるような指導案を目標に作っています。中学校は栄養教諭が少ないので、いない学校にもこれから使っていただけるような指導案を考えていこうと思っています。

2枚目は、全体計画の下で、年間計画、何月ごろに何をやってということを書いているものなのですが、これも最近この形に変わってきているので、まだ完全ではないのですが、こんなかたちで計画をしています。

3枚目のA4の文書は、皆さんが「食育をやっていない、不安だ」とおっしゃっているので、「本当はやっているのですよ」というのを知っていただくためにつけさせていただいています。前任校は小学校ということをお話しさせていただいておりますが、小学校のときに、それこそ校長先生にも食育をどんなふうに行っているのかを分かってもらいにくいところがあり、学校全体、チームで食育に取り組みなさいと言われていたのですが、なかなか共通理解してもらうのが難しいということで、こんなものを作りました。特に小学校の場合は、その学年のことしか分からなくなってしまうので、食育をやっても点になってしまいますが、それをつなげていくというか、こんなふうにつながっているということを知ってもらうために作りました。これを使って、小学校のときは、6年生を卒業させるときにこんな子どもにしたいということで、そこに向かって1年生から上がっていているということを先生方にお話ししました。あるときとても忙しい時期があって、5年生の担任に、「余りにも忙しいから栽培とかをやめましょうか」と言ったら、「私たちがやらなかったらこのカリキュラムが途切れるじゃないですか」と言ってもらって、ちゃんと分かってもらって

いるのだなと思いました。

これをずっと出し続けて、前任の学校では、これを見ながら、自分たちの学年は今この位置にいるということを分かってもらって食育に取り組んでいただいていた。今中学校が『日本のお米』というのをやっているの、一番下に中学道徳とつけ加えたのですが、これは小学校2年生の道徳の『世界のお米、日本のお米』のところからつながっています。だから、みんなつながっていて、「やってない、不安だ」とかおっしゃっているのですが、この資料の中でも、前任校で独自にやっているのは、総合的な学習の時間と5年生の図工のところぐらいで、あとは教科書に載っていることなのです。教科書の中で知らず知らずに食育はやっているのです。

でも、意識ができていないからやってないみたいな感じになっている。

中学校に関しては、食育は、とてもできています。というのも、中学校の家庭科では、小学校でやった食育と言われている分野のものがほとんど教科書に入っています。だから、「栄養教諭がいなくて、やってもらっていないのと違うかな」と思われても、本当は中学校でおさらいができます。

ただ、私、小中一貫が絶対必要だなと思ったのは、中学校は忙しくて時間が無いのです。同じテーマを扱っても、小学校で45分間ぐらい扱っていたものが、中学校は10分間ぐらいしかない。復習というか、おさらい程度にしかできないので、中学校に赴任してきて感じるのは、小学校のときに教科書に載っていたところをもう少し強調してやっておいてほしかったなと思っています。

今後、小中一貫ということで、小学校、中学校の栄養教諭が連携しながら、こういうところは押さえておいてとかいう話もしていけたらいいかなと思っています。

(勢戸座長) では、富永委員、お願いします。

(富永委員) 八竹委員が全て要約をしてお話いただいたのですが、食育全体計画は、中学校では来年からこの形になるので、先行して私たち栄養教諭がいる学校はこの形で作成しています。今までの全体計画は、教科が関連している全ての食に関するところを拾い上げるような作り方をしておりましたが、これからはその学校の課題に向かって今年1年で取り組むものを載せていくというふうになっております。今回、私も中学校に来て教科書も初めて見ますし、小学校からの食育がどうだったかというのも分からず、殿馬場中学校区の小学校が2校あるのですが、どちらも栄養教諭がおりませんので、学校のホームページで小学校がどんな食育をされてきたのかというのを調べるところから始めて全体計画を作りました。

言われていたとおり、教科書はすごく関連してしまっていて、私も家庭科とか道徳とかに入らせていただいているのですが、「先生、それこの前社会で学習したよ」とか、「理科でしたよ」という言葉が子どもたちから出てきますし、教科の先生方からも、この前家庭科でこの話があったというのがものすごくたくさんあることに驚きました。教科の担任の先生は普通に授業をされていると思うのですが、実は食育とつながっていることもたくさんあるのだなということを今回中学校に来て、改めて感じる機会になりました。

全体計画については、栄養教諭がいる学校は栄養教諭が考えて作ってしまいがちなのですが、栄養教諭がいない学校では、たくさんの先生方が力を合わせてこれを作られていると思うので、栄養教諭がいる学校の先生たちよりも、「なるほどそうなっているのか」というのを勉強しながら作られていて、学校の進むべき道が先生方の中でできていると思います。私は以前にも、それまで栄養教諭がいなかった学校に赴任したことがあります。その学校の先生方は栄養教諭がいないからこそチームとなって給食時間や全体計画などを分担してされていました。各学校で先生方が内容を検討しながらこの全体計画を作り、食育を進められているのだなと思いました。

あと、学校で行う食育についてなかなか発信ができていないということにすごく反省しましたので、もっといろんなアピールをしていきたいと思っています。以前、小学校でお箸の持ち方を1年生に指導したときに、「ぜひ家庭の方にも」ということで、参観日に保護者の方と一緒にさせていただいたことがあります。ああいうふうに家庭を巻き込むとか、その後で家庭で練習してきていただくとか、そういう取組をしたときには家庭との連携もできましたし、こういう指導をしているというのを分かっていたくよい機会になったと思いますので、中学校でもできるだけ発信できるように考えていきたいと思っています。

(勢戸座長) 中学校ではいろいろ取り組んでいるというのが分かりました。
苅野委員、お願いします。

(苅野委員) さすが先陣をきって小学校を経験されてから中学校へ行かれているので、食育もトップを走ってもらっているのだなという感じがします。

栄養教諭は、プレゼン力というか、家庭への発信の力が少し弱いのかなというのは感じているところなので、いろんな工夫の仕方をしていきたい。私、以前、全校に栄養教諭の配置というようなことを言ったのですが、今、富永委員が言われたように、いなければ力を合わせるということで、誰かの担当みたいになって、責任がそこだけということではなく、全員で

話し合うということをやるといこうが学校全体としては意識が高まるのかなというのを感じました。

お米も、中学校でそういうところがあるというのを今日初めて聞いて、小学校2年生で3学期に『日本のお米、世界のお米』をやる計画を今立てていたところですし、5年生で、食料自給率のところではお米の生産のところをしっかりとやりますので、ずっとつながっていつているのだなと思います。中学校にどのようにつながっていくのかを知ることで、小学校での指導内容もまた変わってきます。ここをもう少しやっておいてくれといった交流を私たち自身がやっていたら、また深まっていくかなと思います。

全体計画も、今年から小学校は形式が変わったので、コロナの時期もあって、割とじっくり考えて周知できるように作ったつもりですが、今中間的にどこまで進んでいるかというのを各学年で検証してもらうように、話し合いや、ここが弱いならば、食育をどんなふうに強くできるようにしていくのいいかという話をやっているところです。やみくもに授業に入るだけではなくて、つながりを感じながらやっていくことがすごく大事だと考えています。

あと、排便の習慣がないというのは、本当にはないです。6年生に毎年アンケートをとっていますが、半分は排便の習慣がないです。それで、養護教諭と3年間、おなかすっきりキャンペーンをやって、そのときには家庭にも発信して、意識させるとはっきりといい効果が出たのです。学校も本人も先生も意識することで、課題に対して学校全体で取組もできています。

食育とは少し違うかもしれませんが、本校で人権の取組があって、男女共生ということ今年をテーマで取組むので、食育の方面からも何か発信してくれということで、料理を作るのは男の人か女の人かというテーマでいろいろな人に聞いたりしました。男でも女でもどっちもいいですが、できる力は全員が持っているべきだと、学校では教える必要があるということで、そういう力をつけるのが学校であるべきだということを職員と話したところです。

評価はなかなか難しいですが、新しいスタイルの食育推進の評価として、一番下の行のような形で出せるということも私たちも勉強して最近やっと分かったところなので、どんどん積み重ねていけたらいいなと思っています。

(勢戸座長) 池田委員、何かございますか。

(池田委員) 組織立ったところで言うなら、石山委員が持ってこられたグランドデザ

インの本校の分を、私も確認してきました。本校でしたら、「豊かな心」でグランドデザインを考えていますので、「健やかな体」とは少しずれますが、食への感謝の心という部分では関連していたのに、私はここにアプローチができていなかったなど今反省しています。評価ということも含めて、何か組織立ったもので考えるとしたら、先ほど仲野委員がおっしゃっていた学校力向上プランに食育を明記するのが良いと思います。学校力向上プランはどこの学校もホームページに上げていまして、そこには必ず豊かな心、「健やかな体」の項目がありますので、そこに食育をきちっと入れておくことが良いと思います。実は、本校は食育をしているのに、ここに明記していなかったのです。学校力向上プランに記載していなと、ホームページを見た人に伝わらないのではないかということに気がついて、今年度の初めに職員会議の中で、「健やかな体」には食育も関係しているので、実際やっていることをここに入れさせてもらいますということで、本校は今年から入れています。

それにあたって、近くの小学校をいろいろ調べてみましたら、食育について詳しく入れている学校もあれば、あっさり入れているところや本校のように、やっているはずだが、入れてないという学校もあったので、こういうところでどこの学校もきちっと入れて発信すれば、保護者さんも周りの地域の方にも理解してもらえらると思いました。やっているのに分かってもらえていないというのはすごく悲しいなと思って、自分たちの発信の仕方が悪いというのをすごく反省しました。

小中一貫の食育について、今日3つお話ししようと思って考えてきました。1つめは、中学校へ進学する際、幾つかの小学校が集まって中学校に行くと思うのですが、中学校に行ったときに、こっちの小学校から上がってきた子とこっちの小学校から上がってきた子で食育に差があるのはよくないだろうと思います。栄養教諭がいるいないにかかわらず、堺のどこの小学校を卒業しても、これだけはしっかり身につけて中学校に行くというのを私たちはめざさないといけないと改めて思いました。もちろん今までめざしてきて、初研食育部会でも取組んできたつもりなのですが、まだまだ正直学校差があるという気がします。それぞれの学校の特色とか特徴とか地域性とかは活かしながら、最低限これだけのことはどこの学校も食育として学んで卒業させてやりたいと思います。そうするにあたって、食育の6つの視点に沿って1年生から6年生まで、もしくは低学年、中学年、高学年で、その目標ごとにこういう勉強をするというのを計画立てるといいますか、デザインするというか、一貫したものをきちっと作って、どこの学校でも実践すると良いと思います。そのためには、厳選して、少なくしてやっていけるようなものを私たちは整備していかないといけないのかなと改めて思っています。

養護教諭は教諭になられて随分年数がたっていますが、栄養教諭は教諭になって年数が浅いです。でも、私たちは、授業研究は頑張っているつもりです。先生たちと一緒に授業ができるように、初研食育部会の中で、授業研究や実践を重ねていっています。研究授業でやった授業案がたくさんあります。ただ、長いスパンを見据えてとか、大きな視野で授業研究ができていないので、教科に偏りがあったり、学年に偏りがあったり、実践例はたくさんあるのですが、いざ整理してみると、やれていないところがあったりするので、そういったところを小学校の栄養教諭たちで整理をして、足りないところを補っていくような研究のすすめ方をしたら良いと思います。そして、どこの学校でも使えるような基本のセットとなる指導案と教材を作っておくと良いと思います。今もあるのですが、まだまだ活用されていない現実があるので、それをもっと活用できるようなものに変えていかないといけないと思いました。

もう1つは、栄養教諭一人で食育をするのではなく、教諭の先生たちと一緒に取り組むことが大切だと思います。一人ですると楽な部分もありますが、それでは広がっていかないとします。今何人もの先生方がおっしゃっていましたが、それぞれの教科の中に食育的な側面を備えた単元がたくさんあります。私たち栄養教諭が中心になって、教科における食育で、T.T で担任の先生とか教科の先生と一緒に授業をすれば、先生を通じて食育がまた広がると思っています。

実際に、この2学期にすごくうれしいことが幾つかありました。以前に私と同じ学校で勤めた先生から突然連絡があって、「食料生産のところで、昔、池田先生と一緒にやった授業が、すごく印象的でびっくりしました。食を取り入れた社会科の学習は、子どもたちの授業への食いつきが違われ、子どもたちが自分ごととして社会科を捉えてくれました。」とおっしゃってくださいました。そして、今は違う学校に行ったので私と一緒にすることはできないが、「今年5年生の担任なので、あのときの資料はないですか」と言ってくださったのです。また、堺市から国立の別の学校に行かれた先生も、「水産業のところで、食育で池田先生と一緒にやったときの題材がよかったので、やりたい。今年は低学年になったのだけど、低学年でどんなことをやったらいいですか。」と電話をくださったのです。一緒にやっておけば、違うところに行かれても、先生たちを通して広まっていくなと感じたので、私たちも、ひとりぼっちでやらないで、先生たちと関わって続けていくことでつながっていくと思いました。

本校では、今年は支援学級でも自立支援学習に食育を取り入れています。別に「取り入れてください」と言ったわけではないのですが、食を取り入れたら、子どもたちの興味、関心が高まるというのを先生たちは感じて、どんどんつなげていってくれていると思いますので、これからも学校

全体でやっていけるように私たち一人一人が進めていけば、いずれ大きなつながりになっていくと思っています。

最後に、「食べ物が体を育てて、食べ方が心を育てる」というふうに言われています。そういうふうに自分も食育をしていきたいと思ってやっています。何を食べていても体は育ちますが、食べ方で心の育ち方は違うので、心も育つような食育をしたいと思っています。それは、学校だけでは無理だと思っています。オープンスクールで授業をやってみたり、また、授業参観で、先生と一緒に授業をさせてもらったりしたこともあります。授業をしたときには、必ず家庭にお知らせするプリントを出しています。今日こんなことをやったから、子どもに聞いてみてくださいとか、宿題が出せるようなものはなるべく宿題を出して、親子で一緒に考えるきっかけを作るように心がけています。しかし、まだまだ頑張る必要があると思いました。給食は年間200回程度しかありません。計算すると1日3回365日食べる内の2割もありません。あとの8割は家庭での食事です。食事を通して心を育てるには、食育を家庭へつなぐことが大切だと思っています。家庭に一生懸命発信して、家庭での食事と連携して育てていかないといけないと思っています。学校は、小学校から中学校に替わりますが、家庭はずっと一緒なので、小学校のときから家庭にしっかり発信しておくことで、いずれ中学校の食育につながるとしています。一生懸命やっているつもりですが、まだまだのようですので、また頑張っていこうと思います。

(勢戸座長) ありがとうございます。文科省の通知や通達等では、食育については、栄養教諭だけで必ずしなさいとなっていないのは、全教科に食育が携わるというのがあるわけです。だから、全教諭がやります。ここの委員会にあるように校長がトップで、委員の中の1人が栄養教諭という形が本来の姿なので、この委員会の名前だけだったら意味がない。教科の先生が授業を行うときに、栄養教諭が手伝いにいく、助けるというやり方をするのが最終的にめざす食育なのです。もっと言うと、我々も含めて、みんなが食育を身につけたら健康になりますよというのが政府の狙いだと思うので、今は教科の先生ができなくても、栄養教諭が教えていってもら。それを回すのが校長先生というスタイルを確立していかないとはいけません。

もう1つ、グランドデザインで気になるのですが、3つの目標が書かれているのは、本来は3つとも達成しなければいけないですよ。でも、どれか1つに目標を定めてやるというのは堺市の方針ということですよ。そしたら、ほかの2つのレベルは問わないということですか。

(仲野委員) 学校力向上プラン自体が、確かな学びも豊かな心も健やかな体も全部あるのです。だから、学校は必ず3つの分野についての目標は立てています。

今回、グランドデザインは小中を貫くものを作りましようとなっていますので、地域性、各学校の実態に応じてどれかを一つを選んで作成しているところです。

(勢戸座長) その標準化されている目標の達成は、ここまで行ったらその3つの目標、ベースとなる目標というのは誰かが決めているのですか。

(仲野委員) 各学校が定めています。学力調査であるとか、堺市独自の学びの診断であるとか、あとは日々子どもたちの様子、家庭環境、いろんなことを加味して、学校で設定しています。

(勢戸座長) やはり気になるのは、要は堺市全体としての目標設定はしていないということなのですね。

(事務局) 今仲野委員が言ってくくださったように、課題は学校によって異なる部分があります。そういう意味で、グランドデザインとか学校力向上プランというのは、今回石山委員が出していただいた例えばワークシートがあるように、中学校ではこういう課題があります、校区の小学校ではこういう課題があります。その課題を解決するために小中一貫グランドデザインという形にして、その課題に対しての対応策を各学校独自に出していただいているということです。堺市というよりは各学校の実情に合わせての課題で、改善策を立てていただいているというのが現状になるかと思います。

(吉原委員) 私、学校評議員でもあるので、評議員というのは、堺市の独自のコミュニティ・スクール制度ということで、これも地域性で違います。中百舌鳥校区は、こういう人たちが選任されてやるのですが、学校によって、「確かな学び」、「豊かな心」、「健やかな体」などを1学期、2学期、3学期で学校が作成したものを、評議員が第三者的な立場で評価していく。かなり厳しい意見も飛び交いますし、そこで食育のことが上がっていたり上がっていなかったりもするが、基本的には学校長を主として、こういったグランドデザインも見ながらやっていきます。小中一貫ではないので、中百舌鳥中学校の場合は中百舌鳥小学校がどうなっているのか、白鷺小学校がどうなっているのかというのは知らないですが、一応評価していくということです。各学校で違うと思います。

(勢戸座長) 小学校で食育の差が出てきて中学校に入るとするのは困るとというのが池田委員からあったのですが、3つの目標のところのベースラインを堺市でしっかりすれば差がないと思います。その学校で、特化してここをやり

ましようというのは構わないが、最低限小学校でここまで教えましようとか、そういう方針は堺市全体で決めないと、学校単位で決めていたら、同じ中学校へ行くところだったら構わないかもしれないですが、堺市内で別の中学校へ行ったときには何もできないというようなことが起こり得ると、少し心配しています。さっきからランドデザインにひっかかっているわけです。

一貫というのは堺市で一貫ですよ。決してAという小学校からBという中学校への一貫じゃないと思います。

堺市で、どこかの小学校、中学校を出て、9年間でこんな子どもになりますよというのがゴールで、ここの中学校へ行ったら、ここに特化していますよというのは別問題だと思います。

(吉原委員) 小さな校区でしか知らないですが、中百舌鳥という地域だけで申し上げると、北区と中区と東区から中百舌鳥中学校に来るという独特な中学校です。現状でも各区によって上がってくる子はいろんな差があって、運動が苦手、勉強が得意、勉強が苦手、運動が得意とか。あと、地域性もものすごくあるし、保護者の特色とかもあるので、学校の運営をされている方はそれに合わせます。堺市だから、Aというプランでこうましようというのは流してもいいと思うが、地域というのはすごい独特なものであって、なかなかそれにはまり切らない。その辺をフィギュアアウトするのが各学校に合わせたランドデザインで、各地域がうまいことやっているのかなと思います。食育としてこうましようというのを流すのはいいと思うのですが、一地域住民としては遅かれ早かれその壁にぶつかると思います。

(八竹委員) 同じように地域という点で、石山委員が出してくださったランドデザインは、先ほどお話の中で、その地域では、メディアの時間を決め、生活習慣を整えるというところを強調していきたいとおっしゃっていました。それは地域性だと思います。

私がいる中学校区だったら、こういう生活習慣が比較的整っているというか、その辺は割と高い数字が出てきますので、できているのに何回もそこを強調しても余り意味がない。だから、私は、食文化とか心のほうを豊かにしていく。それを自分たちの子どもにも伝えていこうというスタンスでやっていっています。

地域によって差があるので、最低限これぐらいというのは堺市から出しているだけだかないとだめだと思いますが、あとは、そのこの地区の弱いところを上げていかないといけないと思っていて、それでランドデザインを作りなさいというのがあると解釈しております。

(石山委員) このグランドデザインは健やかな体ということで出しているのですが、浜寺中学校は確かな学びについても同じようなものを作っていて、二本柱になるのです。今日はこっち側だけを出させてもらっています。こういうデザインを作っていくにあたっては、小学校と連携をしていくこととなりますので、これはどこの学校でも進めていく必要があると思います。今は教育委員会からこういう形のものを作ろうという発信があって、ようやく我々もこういう形を作っていたという流れがあるのですが、これは今後も続けていって、ブラッシュアップというか、課題も変わっていくだろうから、見直しをしていきながら使っていくものと思っています。

食育に関しては、私は、栄養教諭が配置されている学校に勤務していますので、食育を進めているというイメージだったのですが、いろいろ話を聞いていると、保護者の方にはそこまで伝わっていない。子どもたちは、授業の中で、この間理科でやった話とかある程度浸透してきているのですが、そういう発信力はどこの学校もつけていく必要があると思います。

先ほどから、栄養教諭は全校配置でなくてもいいのではないかと、という話になりつつあるのですが、栄養教諭が専門的にメニューをされてきて、子どもたちとの関わりもやっていただいている現状がここなのです。だから、やはり人が足りない。食育を進めていくためには本当は栄養教諭が全校にいると一番行き届くと思うのですが、全校は少し難しいということなら、増員はしていただきたい。実際来てくださる方がたくさんいない場合ということであれば、今富永委員や池田委員から、栄養教諭の先生がいなくても、先生方が協力してというのがありましたが、感じとしては、学校ではやるのがいっぱいありますので、栄養教諭の先生を全校配置していただくのが一番いいと思っています。そうでないなら、定数の見直しをして、小学校も中学校も職員の増をしていただくと、食育に関わることで、もっといろんなことを進めていけると今実感しているところです。ですので、少なくともいいというのは、私は全然思っていないで、今やっていただいている進めていっているが、広がった感じがしないというところがそこかなと思います。増員を希望いたします。

(勢戸座長) ぜひ増員をとという校長先生の意見も出ています。他に何かありますか。

(植木委員) 今説明していただいて、恥ずかしながら食育というものがここまで幅広いというのを初めて勉強させていただきました。すごく幅広い学びで、感謝しております。こういうのはどんどん広げてほしいし、広げることで、保護者もどうしているのかというのが分かる。食というのは、給食だけではない、家庭科だけでもない、社会科にもあるし、理科の中にもあるし、これを見ていて驚いたのですが、図工の中にも入ってい

ます。幅広い中に食育というものが含まれているというのをもっともっとたくさんの人に知ってもらいたいと感じました。

先程言われたように、ある程度評価をしないと、どうしても堺市全体でまとめることはできないと思いますし、評価をどうするかを考えることで、カリキュラムも決まっていくと思います。地域性はすごくあると思います。うちの小学校だと、地域の方が田んぼを貸してくれますので、5年生になると田植えと稲刈りが入ってくるのですが、石山委員のところみたいにファームがあるところがあれば、何も無いところもあるので、そういう地域性はしょうがないです。それでも最低限のもの、小中で一貫して最終的に中学校を卒業したときにはこの辺のレベルまでは学んでいるというところを決めるのはすごく大事だと今回思いました。

小学校のPTAの会長をやっていると、学校協議会の評議員になるのですが、その中でも食育という話はなかなか出てこない。朝ご飯の喫食率を調べるというのは確かにあったと思いますが、その程度で、食育という言葉も出てこないのです。学校によっては校長先生の考え方もあると思うのですが、どこまで食育に対して重要性を見出しているのかというところでもばらつきがあると思うので、今回の中学校給食全員喫食をきっかけにして、そういうところもすり合わせをしていながら最終的には子どもたちをどのレベルまで上げていくかというのを決めていってほしいというのがあります。この小中のカリキュラムを見て改めてすごいと思いました。ありがとうございます。

(勢戸座長) 今植木委員からあったように評価というのが今後課題になってくると思います。今学校単位でばらばらにやっているというのであれば、評価もしにくくなると思うのですが、学校単位で評価をするのか、堺市として評価するのであれば、教育委員会がやるということになると思います。今日の話聞いてみると、教育委員会がお願いして作っているが、教育委員会のマターではないわけです。

(事務局) 本日はありがとうございます。先ほどから全体の市の教育の考え方の流れみたいな話になっているかと思いますが、今『第3期未来をつくる堺教育プラン』ということで、法に基づく教育振興基本計画の策定をしております。ほぼまとまってきた状態にあります。堺市の方は、別途、通常マスタープランという言い方なのですが、堺市基本計画を今策定しています。もう1つ、市長と教育委員会の話し合いの中から教育大綱というのが別途ございます。

その教育大綱であるとか市の基本計画と併せて、教育については教育プランを今策定していて、今後、パブリックコメントをすることになります。

細かい話はまだできないのですが、我々教育委員会として堺教育プランというのを一番の根本にしています。今回のプランについては、それぞれの事業までは入れていないのですが、こういう方向で進めましょうということで、当然小中移管して食育を推進することも入っております。中学校給食の導入に関しても入れています。あと、「豊かな心」であったり、学力の形成であったり、我々が取組んでいる内容を一通り入れています。

その次のものとしては、単年度ごとの事業計画、教育計画を教育委員会としてはこういうふうにしていきたいと思いますというのを作りながら、それをベースに予算要求とかをしていく。その計画を基に、各年度学校園への指示事項というものに落とし込んでいく。そういう中で、小中一貫について考え方、ベース、まとめるときの様式を決めながら、詳細は学校でいろいろ考えていただいています。そういう大まかな計画の流れ、指示を含めて考え方の整理を全体として行っているというふうに我々は考えています。

当然プランでございますので、K P I も今年は結構綿密に皆で議論しながら作り上げていますので、前回のプランに比べて指標自体は随分減らしています。ただ、個々の事業のK P I も考えていく必要があるので、その辺は今後議論の残るところです。学校での取組をどういう形で吸い上げて、例えば食育に対する全体の評価、個々学校の評価もありますが、全体の評価もしていけないといけない。この教育進行基本計画については毎年1回評価をするということが法律で決まっていますので、そういうところを毎年見ながらローリングしていくというようなことで今考えています。その中で、もうちょっと食育の方針を作ろうとか、そういうこともあり得るでしょうし、全体を大きくくくった中で食育をどう進めていくかという議論も別途する必要があると思います。計画とか方針とかはそういうような形でできていると考えています。

(勢戸座長) ありがとうございます。いい話を聞かせてもらったのですが、教育プランの中に小中一貫した食育を推進するということが入ってくるということであれば、担当部署ができるということですね。今は教育や給食関係の部署と話をされているという言い方だったので、担当部署が決まっていなかなと思うのですが、今後は教育プランの中に食育が上がってくるということであれば、当然担当部署が明確にならないと評価できないということになりますよね。

(事務局) 今の状態ですと保健給食課と学校指導課になると思いますが、その辺分かれている部分がありまして、対応として一本になっていない部分があります。今中学校給食をいろいろ準備していますので、その辺を含めて組織的なことも考えていく必要があると思っています。

(勢戸座長) 来年からは、何かしたいと言えば、堺市の教育委員会のその部署に行けばいいということですよ。

(事務局) そうです。中学校給食だけをやるわけではないので、当然小学校の給食も併せて考えていかないといけないというのが今日のお話でもありますので、組織であるとか全体の方針であるとかいうのは整理していく必要があると思っています。具体については、まだこれからの話だと思います。

(勢戸座長) 来年からはまた違うプランで回っていくということなので、そこへ向けて、今あるものをいいものにしていってもらい、そこに続けられるようにいいものにしていくということも必要かと思います。

今日、委員の皆様で議論しておりました食育の一貫教育については、教育委員会のほうで今後まとめてくれるということで、いろんな意見を教育委員会のほうに言っていくということでよろしくお願いします。それでは、事務局に進行をお返しします。

(事務局) 皆さん、いろいろご意見ありがとうございました。学校の個々の課題の解決と、堺市としての方向性という部分をこの中学校給食全員喫食をいい機会として教育委員会全体でこれからも私たちは考えていきたいと今のご意見をいただいて思いました。

3. 事務連絡

【事務局より、第8回目の中学校給食検討懇話会の開催日時や場所は追って連絡。】

4. 閉会